

日本と韓国の工業高校情報教育の比較研究

—工業高校と普通高校の実践現状を通して—

A Comparative study of Information Education at
Technical High Schools in Japan and South Korea

- Through present practices at both
technical high schools and general high schools -

本村 猛能*

Takenori MOTOMURA

山本 利一**

Toshikazu YAMAMOTO

工藤 雄司***

Yuji KUDO

森山 潤****

Jun MORIYAMA

角 和博*****

Kazuhiro SUMI

* 川村学園女子大学

Kawamura Gakuen Women's University

** 埼玉大学

Saitama University

*** 筑波大学附属坂戸高等学校

High School at Sakado, University of Tsukuba

**** 兵庫教育大学

Hyogo University of Teacher Education

***** 佐賀大学

Saga University

要 旨

日本（関東地区）と韓国（清州市）の工業高校の生徒に対し、情報教育に関する知識・理解及び情意面の比較研究を行った。この時両国の普通高校についても調査した。調査の結果、情報教育の目標（情報リテラシー）を達成するための重要な要素である「情報の科学的理解」に関し、我が国の工業高校生は普通高校生より理解度が高いものの、韓国の高校生は普通高校・工業高校を問わず、我が国より高い理解度と意欲がみられ、我が国の情報教育に関するカリキュラム改正の必要性があることが示唆された。

なお、本研究の評価項目の検討は、ブルーム(Bloom, B.S)等による「認知・精神運動・情意」領域を精査した教育評価理論(taxonomy of educational objectives)と、ペレグリーノ評価理論の『学習者の診断・教授方法の改善・学習プログラム自体の評価』の3目標と『認知(Cognition)・観察(Observation)・解釈(Interpretation)』の3つの理論的枠組みも踏まえており、調査の客観性を見ながら研究を進めた。

キーワード ; 情報教育, 情報リテラシー, 認知・観察・解釈, 情報の科学的理解

日韓中学生の技術に対する態度に関する比較研究

Comparison of Japanese and Korean Students' Attitude toward Technology

李明薰* 金鎮洙** 森山潤*** 上之園哲也**** 市原靖士*****
Myung-Hun Lee, Jinsoo Kim, Jun Moriyama, Tetsuya Uenosono, Yasushi Ichihara

- * 韓国城東工業高等学校
Seongdong Industrial High School, Korea
- ** 韓国教員大学校技術教育科
Korea National University of Education
- *** 兵庫教育大学大学院 自然・生活教育学系
Hyogo University of Teacher Education
- **** 兵庫教育大学大学院 (修士課程・院生)
Master Course student, Hyogo University of Teacher Education
- ***** 兵庫教育大学連合大学院 (博士課程・院生)
PhD student, Hyogo University of Teacher Education

要旨

本研究の目的は、日韓中学生の技術に対する態度を比較することである。中学3年生計802名(韓国405名, 日本397名)を対象に、「技術に対する態度」調査票(李1999)を用いた調査を実施した。本調査票は、「技術の重要性と影響の認識」、「技術と職業に対する興味」、「技術と職業に対する認識」、「技術的活動に対する性差意識」、「技術的活動に対するジェンダーフリー意識」、「技術的活動への実践的興味」、「技術の創造性に対する認識」の計7尺度で構成されている。

調査の結果、日韓両国の中学生共に、「技術の重要性と影響の認識」の得点が最も高く、「技術と職業に対する興味」の得点が最も低くなった。また、日韓両国の中学生共に、「技術と職業に対する興味」、「技術の創造性に対する認識」、「技術的活動への実践的興味」の3尺度において、男子の得点が女子よりも有意に高くなった。日韓両国の中学生を比較すると、技術的活動に対する性差について異なる実態が認められた。すなわち、日本の中学生は男女共に、技術的活動に対する性差意識が強いのに対して、韓国の中学生では女子生徒において技術的活動に対するジェンダーフリー意識が強いことが把握された。

キーワード ; 技術に対する態度, 中学生, 日本, 韓国, 国際比較調査